

# ハリオアマツバメ

## ■南部町初確認の鳥

私がこの鳥を初めて見たのは、愛知県知多半島でした。秋の渡り鳥の移動が間近で見られる観察ポイントで、鳥を良く知っている方から教えてもらいました。半島の上空を他のツバメたちと一緒に素早く飛び交う中で、お腹が黒くお尻と喉が白というこ

とが、望遠鏡で辛うじて見えました。これが唯一の出会いでした。

そして、昨年5月16日。主人が、市山の上空を飛ぶ鳥の群れを見つけ、気になったので慌てて撮影しました。そして、撮影した画像を拡大して図鑑で確認したところ、このハリオアマツバメだったので。恐らく南部町で初めて観察された鳥で、主人にとっては生まれて初めて見た野鳥でした。

## ■南部町は道の駅

日本にやってくるアマツバメ類は、ヒメアマツバメ、アマツバメ、ハリオアマツバメの3種が確認されています。南部町では繁殖せずに、渡り途中の道の駅として立ち寄るようです。ツバメの間ではありませんが、姿形が似ていることからツバメの名前が付けられています。アマツバメは、法勝寺川の上空でも春先にイワツバメやツバメと一緒に飛んでいる姿がよく見られ

ますが、ヒメアマツバメはまだ南部町では見たことがありません。

## ■ハリオって？

ハリオアマツバメは漢字で「針尾雨燕」と記します。その名のとおり、尾羽の先端から羽軸が針のように突き出しています。全長21センチと、ムクドリくらいのおおきな鳥ですが、いつも上空にいるので、事故で保護されたものを触る機会がないと、その「針尾」は見ることができません。実は、ワタクシ学生時代から鳥の羽コレクションをしているのですが、このハリオアマツバメの尾羽もいつか入手したい羽の一つです。彼らは、東日本へ移動し、中部地方以北、主に北海道で子育てをします。また秋に南半球へと旅立つ時、私たちの町に立ち寄って虫を食べてエネルギー補給をしてくれればと思います。

自然観察指導員 桐原真希



市山にて

(撮影：桐原佳介)

## 祐生出会いの館【緑水湖畔】 インフォメーション

■開館時間：9時～17時 ■休館日：毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌平日)

板祐生には二つの側面があります。一つは物の蒐集で、もう一つは孔版画家です。この二つは祐生の表裏一体となって、発展的な活動が展開されました。すなわち、蒐集した物を版画にして記録し、それに自らの感想を添えて私家本にまとめ、多くの人に知らせました。その手法にも特徴がありました。蒐集品は知人からのいただきものでしたし、版画はだれもやったことのないガリ版版画でした。



▲蒐集した土人形(宮城県)



▲祐生作のガリ版版画



▲祐生私家本『おもちゃ籠』